

令和元年6月19日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04693

研究課題名（和文）筆順変遷過程の資料化を図るための基礎的研究

研究課題名（英文）Basic Research to Document a Historic Change Process of the Stroke Order

研究代表者

松本 仁志（MATSUMOTO, Hitoshi）

広島大学・教育学研究科・教授

研究者番号：40274039

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：文献に所収される規範的筆順の歴史的な変遷過程を資料化するために、字種、字体種、筆順種、筆順の表記方法、筆順根拠、筆順の機能性などの筆順変遷に関連する諸要素を踏まえながらどのような観点で資料化を図るかを検討した上で、各要素の組み合わせ方（例えば、各字種における筆順の変遷過程が分かるような、あるいは筆順根拠単位での筆順の変遷過程が分かるような組み合わせ方）を検討しながら、資料化に向けたモデルを作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

筆順の変遷過程の資料化は初めての試みであり、本研究ではそのための条件整備を行いデータ・ベース化への道筋をつけた。資料化が可能になれば、筆順変遷の原理や背景に関するこれまでの仮説的解釈について裏付けを得るとともに、次のような展開が見えてくる。

(1) データ・ベース化が実現すれば、広く漢字圏諸国における筆順史研究の基礎資料として活用され、筆順変遷に関する新たな解釈の可能性も広まる。(2) 資料を活用することで、学校教育における教条化した筆順指導を見直し、筆順の効果や意義への理解を踏まえた指導の開発につながると考える。

研究成果の概要（英文）：The ultimate goal is to create basic materials on the historical transition process of normative stroke order. In this research, in order to realize the goal, the viewpoint which classifies the stroke order is organized based on various factors related to the change of the stroke order, and the combination method of each element is examined. The various elements related to the transition of the stroke order are the type of character, the type of font, the type of stroke order, the writing method of the stroke order, the basis of the stroke order, and the functionality of the stroke order.

研究分野：書写書道教育

キーワード：筆順 筆順史 資料化 データベース

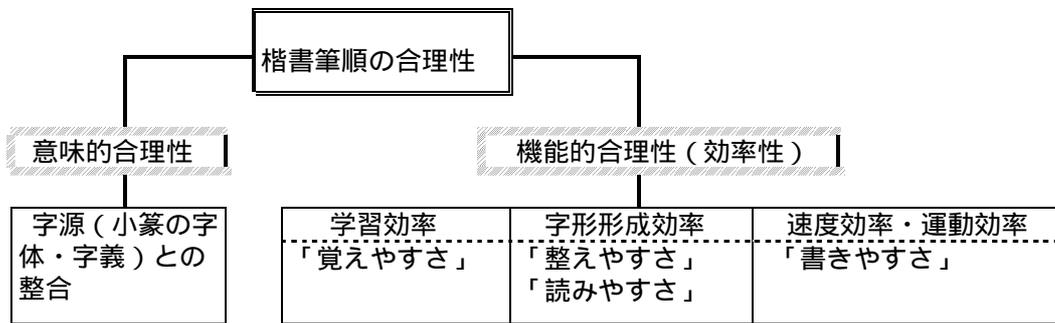
1. 研究開始当初の背景

筆順変遷の通史的解釈を意図した研究は、これまで渡辺精一の一連の論考「筆順雑考」(1954)、「筆順沿革」(1966)、「筆順沿革続考」(1967)以外にほとんど見られない中で、研究代表者は、規範的筆順の妥当性を担保する筆順根拠の存在に注目し、<機能的合理性>の追求過程と<意味的合理性>の追求過程の考察を中心に通史的な解釈を試みてきた。本研究は、その筆順史研究を補完する研究として位置づくものであるが、筆順の変遷過程の資料化は初めての試みであり、そこに学術上の意義を見出すことができる。

筆順の変遷過程の資料化を図ろうとする本研究は、研究代表者の一連の筆順史研究(研究業績欄参照)の成果から得た着想である。これまで研究代表者は、現存する規範的筆順史料を発掘・整理し、規範的筆順の変遷過程について次の点を明らかにしてきた。

- (1) 同一字体の漢字に対して複数の筆順が文献上に提示されてきたこと。
- (2) 文献上に提示された規範的筆順には、その規範性を支える根拠が備わっていたこと。
- (3) その根拠は<機能的合理性>と<意味的合理性>にあったこと(図ア)。
- (4) 筆順の変遷過程には、次の4つの<機能的合理性>の追求が関わっていたこと。
「書きやすさ」、「整えやすさ」、「読みやすさ」、「覚えやすさ」(図ア)
- (5) 筆順の変遷過程には、字源(小篆の字義・字体)との整合性を求める<意味的合理性>の追求が行われた過去があったこと。

図ア 楷書筆順を決定する合理性の構造



本研究において筆順の変遷過程の資料化が可能になれば、筆順の変遷に関するより精緻な考察と新たな解釈を生み出す可能性が高まると考える。

2. 研究の目的

現在確認されている最古の筆順史料『書法三昧』(元~明代)から、今日の漢字圏諸国において学校教育の楷書筆順規範とされる『筆順指導の手びき』(日本)、『現代漢語通用字筆順規範』(中国)、『常用国字標準字体筆順手冊』(台湾)に至るまでの筆順関連文献所収筆順を対象とし、その変遷過程の資料化を図ることを目指して基礎的考察を行う。研究期間中に次の二つの研究課題に取り組み、複雑な筆順変遷の過程を資料化するために必要な条件を整える。

- (1) 字種、字体種、筆順種、筆順の表記方法、筆順根拠、筆順の機能性などの筆順変遷に関連する諸要素を踏まえて、どのような視点で資料化を図るかを整理すること。
- (2) 効果的な資料化を前提として、各要素の組み合わせ方(例えば、各字種における筆順根拠の変遷と各筆順史料において中心的な筆順根拠との関係性が分かるような組み合わせ方)を、モデルを作成しながら検討すること。

3. 研究の方法

- (1) 視点の整理...字種、字体種、筆順種、筆順の表記方法、筆順根拠、筆順の機能性などの筆順関連要素を踏まえて整理する。
- (2) 方法の策定...字種の並べ方や要素の組み合わせ方などを中心に検討する。
- (3) 資料モデルの作成・検討...モデルを作成しながら資料の具体的な形を検討する。

モデル作成の対象とした史料

- 1 a 撰者未詳『書法三昧』(刊行年未詳) / 1 b / 2 a 趙謙撰『學範』(明代) / 2 b / 3 王弘誨撰『文字談苑』(明代) / 4 a 梅膺祚編『字彙』(明代) / 4 b / 5 張自烈編『正字通』(明代末) / 6 唐彪編『父師善誘法』(清代) / 7 蔣和撰『書法正傳』(清代) / 8 苗村丈伯編『小篆増字和玉篇綱目』(寶永6(1709)) / 9 勝田祐義編『早引和玉篇大成』(享保5(1720)) / 10 市河米庵著『米庵墨談』(寛政17(1812)) / 11 坪内玄益著『習字のはじめ』(明治11(1878)) / 12 久保田梁山著『小學書法辨』(明治11(1878)) / 13 内田不賢編『開化生徒往来』(明治11(1878)) / 14 五十川左武郎著『運筆法』(明治12(1879)) / 15 朝野泰彦著『小學新撰童子通』(明治13(1880)) / 16 石川鴻齋著『書法詳論』(明治18(1885)) / 17 高田忠周著『小学校尋常科習字本』(明治20(1887)) / 18 那須熙著『運筆順序』(明治21(1888)) / 19 青野喜兵衛著『書法問答』(明治25(1892)) / 20 日隈徳明著『習字法』(明治27(1894)) / 21 竹田左膳著『運筆の順序』巻の一(明治28(1895)) / 22 福井淳著『運筆自在 習字速成術』

(明治30(1897))/23 東京習字会編『習字要訣』(明治31(1898))/24 川口嘉著『運筆順序』(明治33(1900))/25 田賀系静湖著『書法要領』(明治35(1902))/26 浅野儀史著『小學校令適用運筆順序』(明治35(1902))/27 北海道師範学校附属小學校編『各科教授提要』(明治36(1903))/28 富田近之助著『小學校書方教授法』(明治38(1905))/29 東京高等師範学校附属小學校編『小學校教授細目』(明治40(1907))/30 佐藤惟昇著『習字教材』(明治41(1908))/31 米澤又郎著『習字のすさび』(明治42(1909))/32 村田竜洲著『書法正解』(明治42-43(1909-1910))/33 井田秀生著『書道手引』(明治42(1909))/34 安達常正著『漢字の研究』(明治42(1909))/35 大葉久吉著『小學校の實際に關する適切なる諸問題の研究』(明治43(1910))/36 系長徳松著『新讀本漢字研究』(明治43(1910))

モデル作成の対象とした字種

「飛」「川」「必」「及」「馬」「止」「門」「片」「無」「左」「右」「兆」「鼎」「老」「長」「非」「書」「風」「臣」「寒」

4. 研究成果

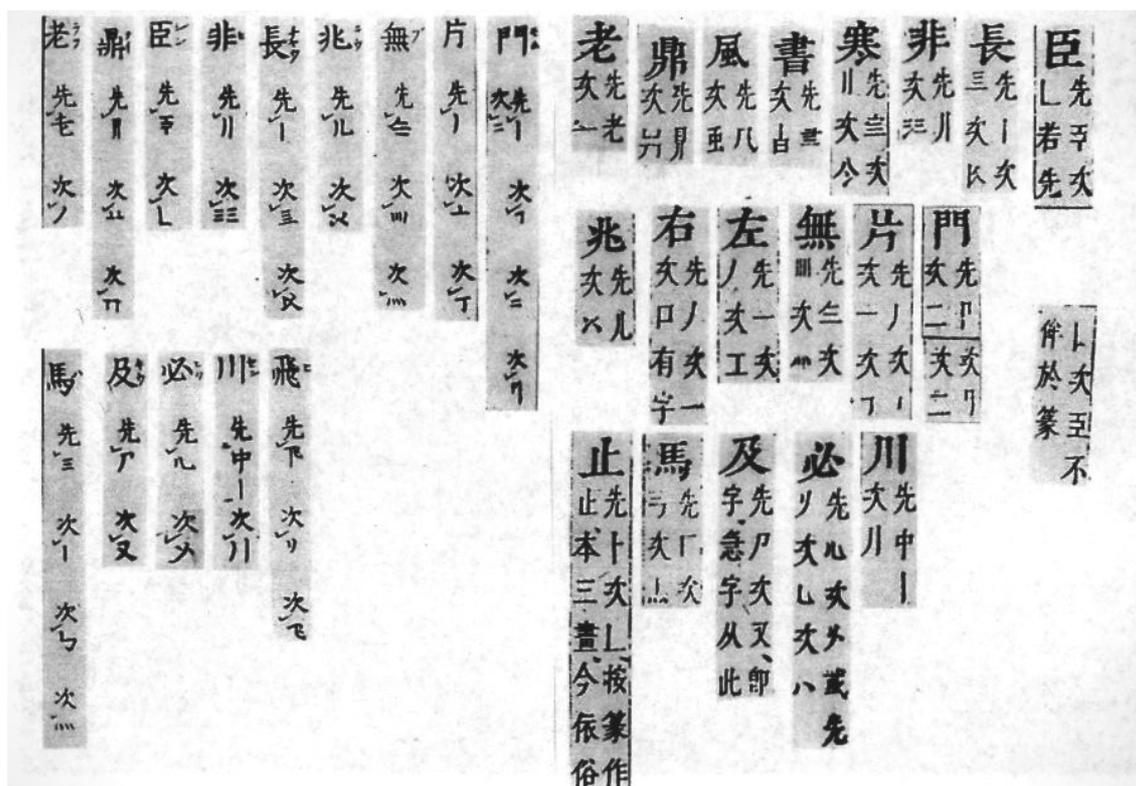
(1)未収の集筆順資料として、明代・趙謙撰の『学範』の異本『四庫全書』本及び東洋文庫蔵本、また、清代・唐彪著の『父師善誘法』の異本である同志社大学蔵本を収集した。また、『常用国字標準字体筆順手冊』以前の戦後台湾の筆順資料としては、親親編集部編集の『兒童图画字典』(1982)を収集した。

(2)文部省の『筆順指導の手びき』(1958)所収筆順との比較のため、「当用漢字表」の漢字881字の筆順すべてを収録している資料(『書取りと筆順』(1950)、『ペン習字辞典』(1952)、『国語学習事典』(1952)、『教育漢字の筆順と精解』(1954)、『少年書道講座1-10』(1955-1956)、『標準当用漢字辞典』(1955)、『書道実習講座7・教育漢字三体字典』(1956)、『中学生の新たなづかい送りがな字典』(1957))に限定して、『筆順指導の手びき』との字種、字体、筆順の異同を整理した。

(3)Web公開を念頭においた検索システムの検討については手をつけていないが、字種・筆順の検索に備えて、文字番号を付与する作業を行なった。

(4)HNG(漢字字体規範データベース)では、漢字単体の入力で観点毎の羅列的表示が可能であるが、筆順の場合は字種毎に表示面積の差が大きいため、コンパクトなスペースでの表示は困難であること、すべてを数字記入表記や点画累加式表記で統一して入力することは、部分結合式表記に意味を持たせている字源系筆順や表示字形に意味を持たせている運筆系筆順の読み取りができないことなどから、一元的に表示することは困難という結論を得て、新たな筆順解釈の余地を残すために文献単位()と字種単位()の二つを基本的な分類観点とし、筆順史研究で明らかとなっている分類観点を追加設定できるように(例えば 筆順根拠単位の筆順一覧)原文そのままを画像として取り込むことを想定して以下のモデルを作成した。

筆順所収文献資料単位の筆順一覧(部分)



(唐彪編『父師善誘法』(清代))

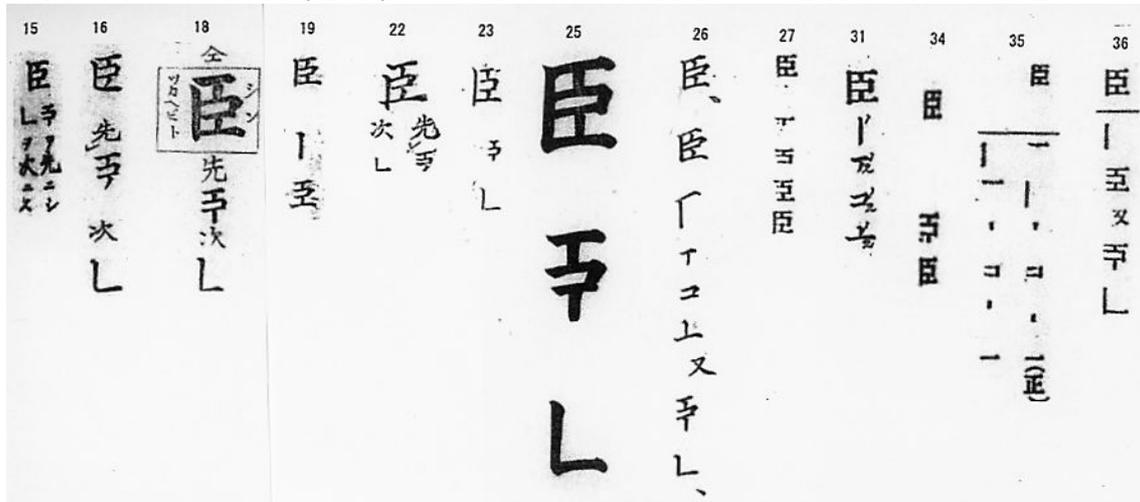
(張自烈編『正字通』(明代末))

この分類は、筆順根拠単位の分類と組み合わせることで、各資料における筆順根拠の傾向を分析することができる。

字種単位の筆順一覧（部分）

数字は上記資料番号

* 字体種の扱いは課題

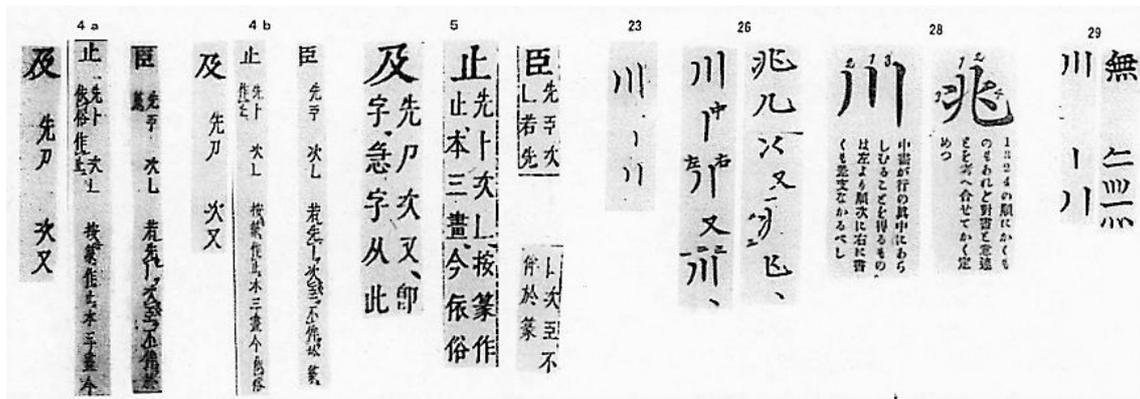


この分類では、徐々に字源系筆順から離れて機能的合理性（効率性）の筆順にシフトしていく過程を読み取ることができる。また、機能的合理性（効率性）の筆順の中で教育系筆順が台頭する流れを読み取ることができる。

筆順根拠単位の筆順一覧（部分）

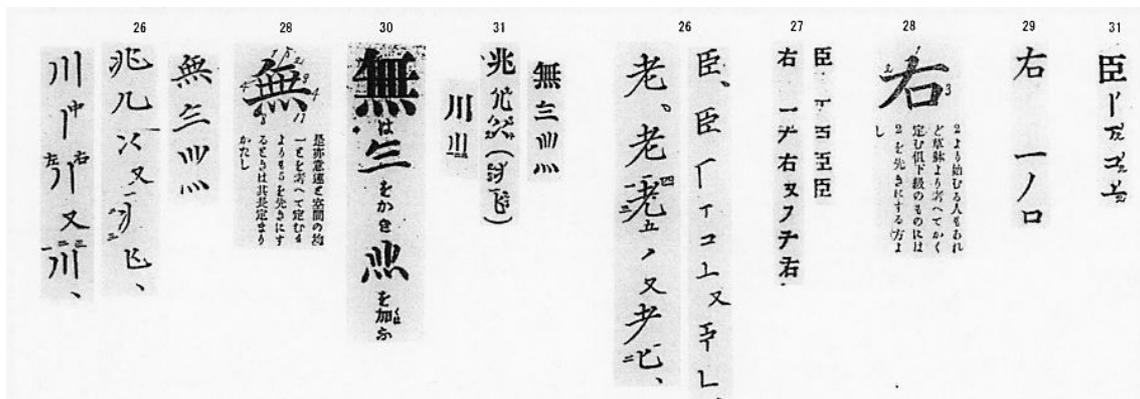
< 字源系筆順 >

< 結構系筆順 >



< 運筆系筆順 >

< 教育系筆順 >



この分類は、筆順所収文献資料単位の分類と組み合わせることで、筆順史料間の関係性を読み取りやすくなる。筆順根拠判定の精緻化は課題である。

筆順所収文献資料一覧（略）

字種単位の筆順所収文献資料一覧（略）

筆順種単位の所収文献資料一覧（略）

なお、同一字種における字体の違いの扱い、『筆順指導の手びき』までの筆順史料の画像の取り込み、画像ノイズの除去、筆順単位のサイズ調整は課題として残している。

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。